

分掌	評価項目	具体的目標(小目標)	具体的方策	評価指標	年度末成果と課題(評価結果の分析)	自己評価	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
生徒活動推進部	自主的な態度で自立的に行動できる生徒を育成し、自信と誇りを持たせる	生徒会、各種委員会活動の活性化	・自主的・自立的に行動できる生徒の育成を目指し、生徒自ら企画・実践を行い成功体験を得ることができるよう指導する	・各種活動において生徒会本部役員や各種委員長、クラブキャプテンなどが集まり、生徒主導で計画を立案し、運営していけるよう適切に指導する	・庶務的な仕事は積極的に取り組めたが、生徒会主催の行事を実施することができなかった。生徒会選挙において立候補者の指導が不十分であった。	C	・リーダー研修会を定期的に行い、学校生と代表としての自覚を養う。あいさつ運動や募金活動も引き続き自主的に取り組むよう促していく。	部活動の活性化を目指してどのような取組を行ったか。今年度は、保健体育部と協力して新入生への体験入部を実施し、部活動参加への意識付けを行った。
		部活動の活性化	・部活動加入率の向上を目指すとともに、生徒の実態に応じた部活動の活性化を目指す	・新入生への勧誘活動を活性化させ、生徒のクラブ加入率50%以上を目指す ・部員集会等を定期的に行い、クラブ員の自覚を促す	・生徒のクラブ加入率は50%であった。 ・部員集会は定期的に行うことができたが、内容の工夫が必要だと感じた。	B	・新入生に部活動体験期間を設け、部活動見学を義務づけ、入部へのモチベーションを高める。 ・部員集会は今後も保健体育部だけでなく、各部顧問にも講話を依頼したい。	
		芸術や文化に親しむ態度の育成	・朝の読書や読書に親しむ会を中心に読書習慣を身に付けさせ、豊かな人間性を育てる ・文化図書委員会を中心に、校内読書感想画コンクールを催し、読書推進の一助とする ・文化祭等の文化的行事で、様々な芸術に触れる機会を与える	・朝の読書に集中して取り組めるように、読み聞かせや放送なども念頭に、内容を工夫して展開する ・読書の啓発活動を創意工夫し、積極的に行う ・様々な芸術活動への主体的な参加を生徒に促す	・今年度はコロナの影響もあり、各学期の朝読イベントを実施できなかった。文化図書委員会活動や実施可能な企画は慎重に対策を講じながら取り組めた(校内読書感想文・画コンクール等)。 ・昨年に引き続き、文化祭は動画での発表となったが、有志の参加希望もあり、生徒の文化的行事に対する意識は維持できたとされる。	B	・今後もコロナ禍の中でも「何を実施できるか」を念頭に各行事を計画していく。特に文化祭は本校において重要な行事の一部なので、可能な限り全校生徒が参加できる方法を模索していきたい。	
		地域交流および貢献活動の推進	・地域とともにある学校づくりをさらに充実させ、様々な活動に学校全体で参加できるような体制づくりを目指す	・地域貢献活動に多くの生徒が幅広く参加できるよう、参加案内や啓発方法を工夫する ・活動後の報告などを通して校内外に向けたPRを行う	・昨年度同様、文化部の発表を施設内で行ったが、回数・種類を増やすことができなかった。また、活動内容を十分に校内外にアピールできなかった。	B	・学科・委員会・部活動・生徒会等と連携し、近隣の清掃活動や募金活動、また地域ボランティア等にも参加できるように促していく。	
こども福祉科	社会福祉、保育・幼児教育の学びを通し、社会に貢献できる人材の育成を目指す	適切な系列選択の実施	「産業社会と人間」の授業を充実させ、各人の適性・希望に応じて系列選択ができるように指導する	「産業社会と人間」の授業で年間10回以上系列選択のガイダンスを行う	系列選択の授業は年間10回以上行うことができ、生徒たちにはしっかりと意識付けできたと思う。	A	来年度以降もより充実した授業展開をしていきたい。	コロナ禍で、どのように実習やボランティアを行っているのか。コロナ感染拡大の影響によりほとんどの実習やボランティア活動が中止となったが、ワクチン接種も進み、少しずつ、感染拡大状況の改善が見られることから、次年度、更に各施設と連携を密にし、取り組む。
		充実した体験学習の実施	実習施設を確保し、充実した実習が円滑に行えるようにしっかりと準備する	・保育・幼児教育施設を9施設以上、福祉施設26施設を確保する ・施設実習の計画を系列の特色に応じて適切に作成する	それぞれの系列の実習施設は確保できているが、コロナ感染拡大の深刻な影響によりほとんど予定していた実習・ボランティアを実施することができなかった。	B	コロナ感染拡大の影響により実習が中断しているので、来年度以降、各施設とより密接な連携をとっていきたい。	
人間探究コース	小学校教諭・幼稚園教諭・保育士を養成するコースとして、豊かな人間性と地域社会に貢献できるリーダーとしての資質の醸成を目指す	保育・幼児教育施設実習の実践	年間3日間の保育・幼児教育施設実習をはじめ、3週間の長期インターンシップや保育園との招待交流などを実施し、経験値を上げていく	事前指導・事後指導の徹底を図り、毎回レポート等の提出を義務付け、体験を整理させ、その定着を図る	本年度はコロナ感染拡大の影響によりまったく活動ができないという状況であった。また、現在本コースは3年生しか在籍していないので、もともと実習の計画は存在していない。	B	本コースの長年の実績と経験を次の保育・幼児教育系列に引き継ぎ、更なる発展を期したい。	同上
		ボランティア活動の実践	保育・幼児教育施設実習や地域社会、ユニセフ等とのボランティア活動に積極的に参加し、ボランティアリーダーとしての資質の向上を図る	ボランティア活動への参加回数を年間5回以上を目指す	コロナ感染拡大の影響により全ての活動が停止しているという状況であった。	B	同上	
福祉科	社会福祉に貢献できる人材の育成	国家試験合格者の向上	・国家試験対策講座を夏と冬に実施する ・医師・看護師等を講師として招聘する ・社会人非常勤登用講座を計画する	・3年生対象に年2回国家試験模擬試験を実施し、平均85点以上を目指す ・「こころからだの理解」105時間の授業を担当する医師・看護師を確保する ・社会人講師(年間25時間)の授業を実施する	・年2回実施できた。1回目72・8点2回目67・3点で目標が達成できなかった。 ・新規の医師・看護師講師は探すことはできなかった。 ・社会人講師授業は計画通り実施できた。	A	福祉科で培われた伝統を宇陀高校に引き継いでいきたい。	コロナ禍で、介護実習の状況はどうか。昨年度の施設実習はすべて中止となり、代替として施設職員を講師として招聘し、校内実習を行ったが、今年度は、施設職員や専門職による授業や施設見学を実施することができた。
		介護実習の充実	・介護施設等で勤務する専門職による授業・実習を計画する ・介護現場を体験できる授業を計画する	・介護施設に実習に行けない場合は、施設職員や専門職を講師として学校に招き、専門職講師による授業や実習を年間10時間以上実施する ・クラスの生徒全員が、1日だけでも介護現場を体験できるように施設と相談し計画し、実施する	・施設職員・専門職による授業を10時間以上実施できた。 ・3年生は全員特別養護老人ホーム施設見学を1日実施できた。	A	同上	
		介護福祉士養成課程で生徒達の交流を図り、多様な価値観を育成する	・こども・福祉科、福祉科、専攻科の3科の介護福祉士養成課程が併存するのは今年度だけであり、3科で協力し介護福祉士の養成を行う	・3科合同の交流授業を計画し、実施する	・各学年ごとの交流や合同授業は実施できた。しかし、3科合同授業は実施できなかった。	A	同上	
専攻科	多様な価値観を尊重する姿勢をもち、地域社会の福祉を担う人材の育成	専門知識の定着	・国家試験合格のために、福祉専門科目の集中講義を行う ・専門職による授業を実施する	・夏期休業中と冬期休業中に5日間の特別時間割を作成し授業を実施する ・施設職員や専門職を講師として学校に招き、授業や実習を年間8時間以上実施する	・長期休業中の特別時間割の授業は実施できなかった。 ・施設職員や専門職の授業を8時間以上実施できた。	B	長期休業中は経済的に厳しい生徒もいるため、アルバイトをして学費を貯める必要があるため、より計画的に授業時間を確保していきたい。	留学生が多数在籍する専攻科において、どのように地域との連携を図っているか。地域を教材とした授業を設定し、地元警察やまちづくり協議会等、地域人材を活用した授業を展開した。校内においては、介護福祉に関わって高校生との合同授業を実施し、交流を進めた。
		地域と連携した教育の実践	・福祉の視点から宇陀市や奈良県について学ぶ ・宇陀市との連携協定をとおして地域の人材や地域資源の活用について協力を求める ・外国人留学生が安心して生活できるようサポートする	・学校設定科目の中で、宇陀市や奈良県を教材とした授業を10時間以上計画し実施する ・地域人材や地域資源を活用した授業、活動を計画し実施する ・警察との連携をはかる ・日本語能力向上のための学習を支援する	・地域を教材とした授業を10時間以上実施した。 ・警察やまちづくり協議会と連携した授業ができた。 ・地域の日本語教室で10月からオンライン授業をうけている。	A	コロナ感染拡大のため、地域でのボランティア活動等ができていない。地域と交流できる手段を模索していきたい。	
		介護福祉士養成課程で生徒達の交流を図り、多様な価値観を育成する	・こども・福祉科、福祉科、専攻科の3科の介護福祉士養成課程が併存するのは今年度だけであり、3科で協力し介護福祉士の養成を行う	・3科合同の交流授業を計画し、実施する	・各学年ごとの交流や合同授業は実施できた。しかし、3科合同授業は実施できなかった。	B	高校生との交流をひろげていきたい。	